

「ようこそ海から高砂へ」
Well come form the sea to TAKASAGO



NPO Yacht Squadron
We are Squadron of Sailors
who protect the nada and canals

令和北前船
ヨット & 帆船みらいへ@高砂

来歴：2023-11-9神戸商工会議所主催の
帆船みらいへ会合の資料

はじめに



- ✓ NPO設立、ヨットを利用した体験活動をみなさんへ提供している。
- ✓ 数年前、ヨットで北前航路を辿り小樽までクルージングをした。(NPOリーフレット記載)
- ✓ その途中、北海道江差町から日本遺産メッセージを受け高砂市長へ伝達、高砂の申請に繋ぐ
- ✓ ヨットを北前船に見立て、謡曲高砂この浦舟に帆をあげる、を實踐中。
- ✓ **過去と未来から学ぶ**をキーワードトリニティー体験学習メニューを提供する。
トリニティー(次頁)を観光資源とする体験型観光メニューを實踐中。
トリニティーのひとつ環境を観光資源として活かすことを実証中。
- ✓ 観光庁の補助事業を利用し帆船みらいへを高砂に寄港、これも令和の北前船に見立てた。北前船航路を辿りながら、海洋環境、北前船文化、今昔物流情報、歴史交流等々伝える、北前船寄港地集落ネットワーク活性化に繋ぐ。

トリニティーの概要



トリニティー体験（三位一体）とは

- ①郷土の歴史に触れる。
- ②海洋プラスチック環境を身近な堀川運河と播磨灘で触れる。
- ③松右衛門帆を揚げた北前船とスポーツであるヨットの動く原理は同じであることを播磨灘で体験する。

これに参加する人たちはワンストップ体験できる仕組み。



サスティナブルに触れる

高砂にしかないもの・強みを活かす、
松右衛門翁の江戸時代の発明とモノ作りが今に繋がる、、物語とする。

- ✓ 工楽松右衛門旧宅はサスティナブルな家屋。
 - 板塀は高瀬舟の船側・底板江戸時代循環型社会SDGs先取り。
- ✓ 松右衛門翁は帆布、築港設備の発明者、それも製造特許を自由開放。
 - ものづくり加工技術者。道具を含め凡ゆるモノを大切にする。
 - 築港の遺構（東風の請波止）現役防波堤として活躍。（持続）
- ✓ 高砂の海岸線には世界の一流品メーカー工場があり環境課題に取り組む。
 - カネカ生分解性バイオポリマー
 - サントリーペットボトル再利用システム
 - 三菱高製水素燃料利用のタービン研究と高砂水素パーク整備検証。

特定非営利活動法人
non profit organization in TAKASAGO



以下、ヨットを利用したトリニティー体験学習の風景写真

堀川運河・播磨灘はロンドンへ繋がる（国際感）

プラスチックゴミは河川から
世界の海へ



pm参加チーム



堀川運河そばの工楽松右衛門旧宅を利用した 海洋プラスチック環境と郷土の偉人・歴史学習の風景



- ✓ 堀川運河環境学習
- ✓ 松右衛門紙芝居
- ✓ 郷土の歴史学習
- ✓ 工楽家旧宅と堀川運河を繋ぐ



北前船とヨットの動く原理を体験・海から住む町を見る 非日常な体験

高砂沖から住む街を見て
地勢を知る、播磨灘の自然
環境を再認識する。



高砂沖から世界の一流品、環境保全
の製品を作る工場群を見る、モノづ
くりの町に誇りを持つ。



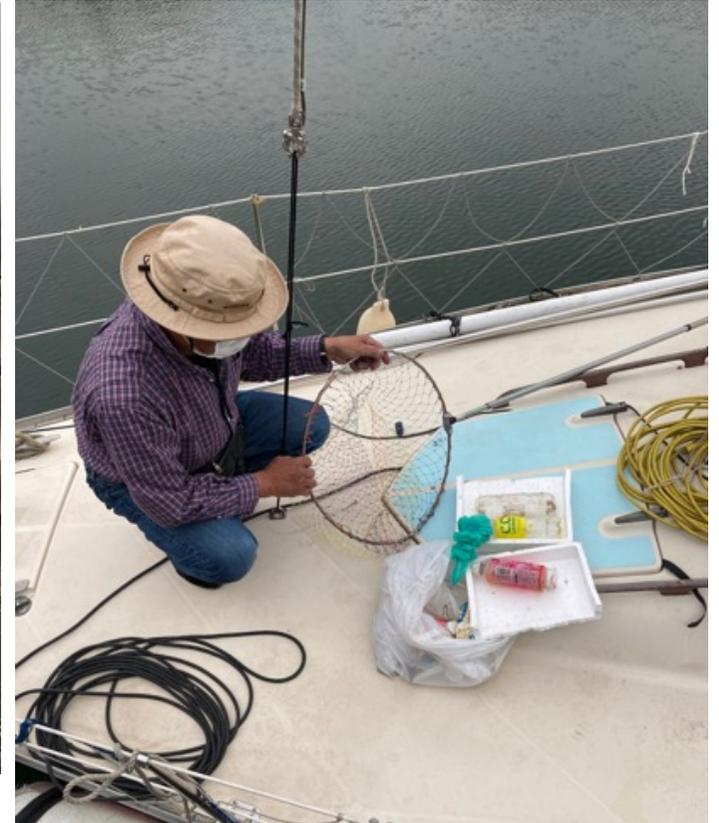
郷土の歴史に触れる。
紙芝居とか、かるたで偉人を知る。



海洋プラスチックと江戸のSDGsに触れる 板塀は高瀬舟廃材利用



堀川運河のプラスチックゴミ拾い体験 月例体験行事でのひとコマ



堀川運河のプラスチックゴミ拾い体験する小学生



参加者のお母さんコメント「この子達の年齢から環境問題を教えねばなりませんね」

ヨット利用の海洋マイクロプラスチック 採集テスト状況



ガールスカウト中学生隊員とOG母親が採集テストに参加、自由研究学習の話しをすると参加したいと言いつつ、このプロセスが大切と娘たちに話しかけていた。

堀川運河のプラスチックごみ拾い日体験のツール

b 環境リーフレット



海の問題に対する、わたし達の取り組み

私たち NPO 法人高砂海文化 21C は環境省の推進する「プラスチック・スマート」キャンペーンに賛同、フォーラムに参加して、出来ることから行動します。

- ▶ セーリング中に、海面でプラスチック浮遊物を見つけたら、艇の安全確保を行なったのち、直ちに回収します。
- ▶ セーリングイベントにおいて、プラスチックが海洋生物に与える影響などを紹介して、海を汚さないようにしようと呼びかけます。
- ▶ はばひろく、海の豊かさを守ろうと呼びかけ、海洋環境保全の課題を共有して、対策を考え、身近に出来ることを実践します。

NPO 法人高砂海文化 21C

セーラーのみならず、セーリングイベント参加のみならず、多くのみならずへ国連の推進する持続可能な開発のための 2030 アジェンダに掲げられた 17 の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の中の #14「海の豊かさを守ろう」と、環境省の推進する「プラスチックによる海の汚染問題」に対して、身近に出来ることを考え、一緒に取り組みましょう。



2019/9/600

a 参加記念バッジ



c 座学テキスト



トリニティー体験テキスト
海洋プラスチック編



かいよう
「海洋プラスチックごみ」問題について

兵庫県東播磨県民局環境課監修
NPO法人高砂海文化21C編集

d 環境旗掲揚





観光庁の助成事業に採択される

以下、帆船みらいへにトリニティー機能を付加し
体験型観光を実践した写真

帆船みらいへ高砂初入港

ようこそ海から高砂へ副市長挨拶

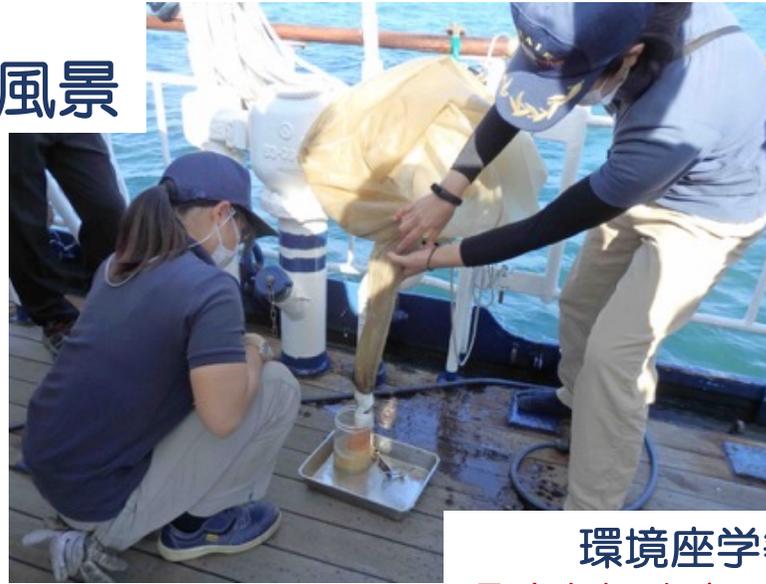


砂山の高砂港へ繋留風景

立派な室津港の風景



帆船みらいへの マイクロプラスチック採集風景



環境座学等の風景
環境を観光資源にするを实践



みらいへの船上研修

北前船・みらいへ風で動く原理は同じ
+ 海の環境 + 郷土の歴史 = トリニティー体験



チームワークで主帆をあげる風景



松右衛門帆の北前船も
同じように帆をあげた



体験型観光事業の実証実験 世界最長大橋をくぐるシーン



女性クルーの
マストクライム



舳先に移動する
アトラクション

工楽家旧宅前の堀川運河でヨットに乗船、
帆船みらいへまで運河の景色を楽しみながら、運河の歴史を知る。



BBQディナー & 宿泊のお客様



船内宿泊生活説明の風景

夕暮れ時の風景



BBQディナー風景



想い思いのデッキパーティー



宿泊客の体験 朝のデッキ磨きの風景

知らない同士が、同じ釜の飯を食べ
共に一宿すると
意気投合が生まれる





宿泊客のミーティングと ラジオ体操風景



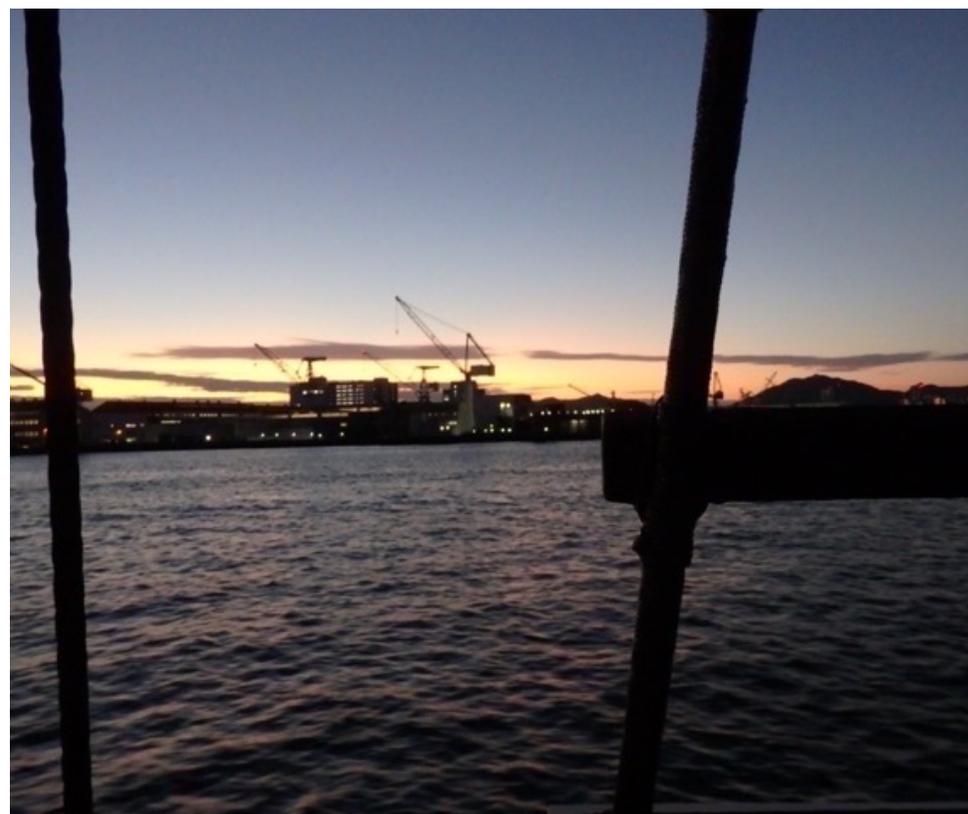
神戸港、
夜景を楽しむ入港



北前船寄港地・兵庫津エリア



帆船みらいへ母港の
夜景をガイド





神戸港中突堤史の
シンボル灯台

神戸メリケンパーク
オリエンタルホテル灯台



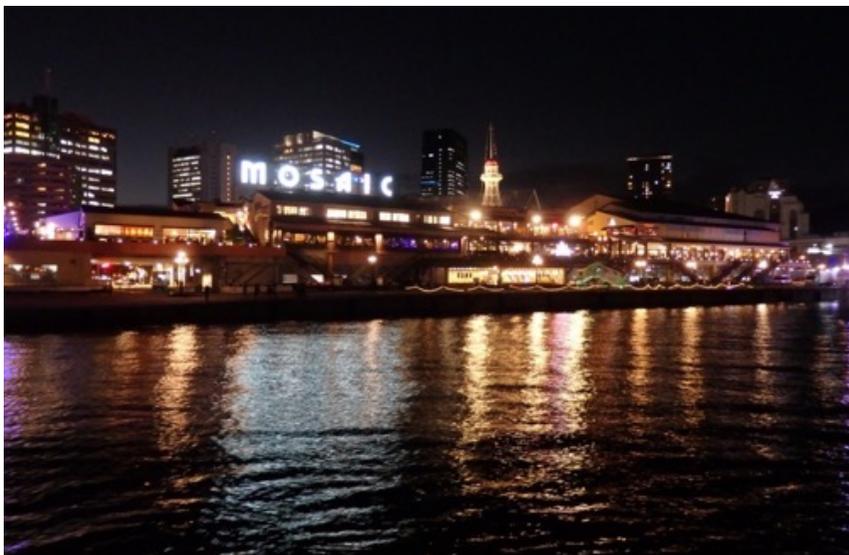


ホテルオークラが幻想的

メリケン波止場対岸



Mosaic側の観客



みらいへ左舷の乗船客



灯台の信号旗は
U W & K O B E



「過去と未来から学ぶ」
手作りポスター展開

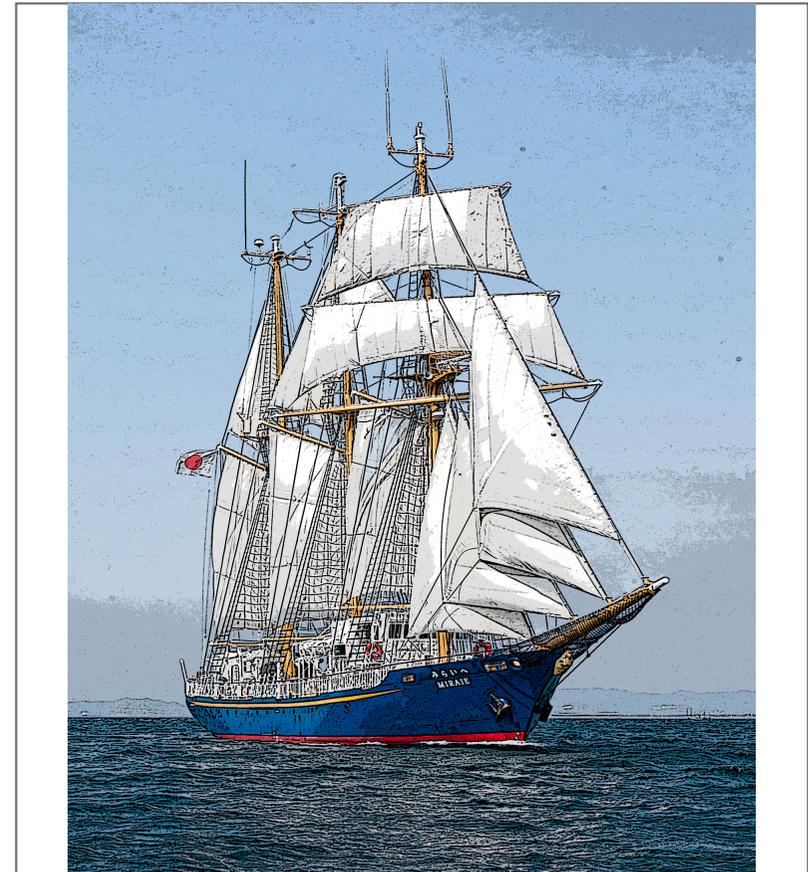


10/8 9:30am~2:30pm

今流 北前船

帆船みらいへ@高砂

水主の末裔若衆たちは、この日だけパイレーツになる。
目をとめた君、・・・なってみないか。



高砂や、この浦舟に帆をあげて

Well come from The sea to TAKASAGO
Shall we raise the sails of kono Urabune MIRAIE

modern Kitamaebune
Hansen Miraie@TAKASAGO



北前船寄港地ツアーコース

- Aコース 兵庫津（神戸港）～高砂体験航海と高砂まちあるき（日帰り）
- Bコース 高砂港サンセットクルーズ、高砂～室津体験航海と室津のまちめぐり（1泊2日）
- Cコース 室津のまちめぐりと室津～高砂体験航海（日帰り）
- Dコース 高砂～室津体験航海と室津のまちめぐり（日帰り）
- Eコース 高砂～兵庫津（神戸港）体験航海（日帰り）



帆船みらいへ2022参加者印象コメント

➤ 大人の乗船体験者

- ① 強烈なまでに深く記憶に刻まれる一日だった。
- ② 帆船みらいへは世代を超えて楽しめる上に教育効果が絶大。
- ③ 不定期で北前航路を運行してはどうか。
- ④ 高砂の港を綺麗にして欲しい。
- ⑤ 高砂はいい街、知らなかった。

➤ 子どもたち

- ① 船上での海洋プラスチック採取は初めて、いい経験になった。
- ② 歴史と環境の座学を子ども向けにして欲しい。

月例ヨットトリニティー体験参加者の声

- ① この子たちの齢から灘や運河の環境保全を伝えないとなりませんね。
- ② 運河をヨット体験で巡る、まあこんな風景があるとは、、。
- ③ 高砂で生まれ住む女性、孫とヨットに乗りフツと思う、この歳になると住む町の良さがわかる。
- ④ 働く高齢女性、運河も灘も、みんなのもの、うまく使うことが大切、娘と孫をヨットに乗せて。
- ⑤ 東風の請波止をみて、ここにも松右衛門さんの遺構があるとは、、。

海の文化活動への取り組み
松右衛門帆・北前船航路を辿る

高砂から小樽へ松右衛門帆・北前船航路を辿る航海に挑戦しました。日本海と瀬戸内海の港町を訪ねて、松右衛門帆の資料収集や北前船寄港地高砂の地名を探す傍、地元役所や郷土資料館、博物館を訪ね得た北前船の日本遺産登録の情報等を高砂市長へ報告しました。時折、5mを越える波にもまれながらの88日間、4800kmの航海では寄港地での人々との出会いや海の文化に触れ、改めて松右衛門帆・北前船の認識を深める旅となりました。

航海日誌：<http://kurenai-y.blogspot.com>

3カ月ぶり高砂帰港
工業松右衛門の足跡めぐる船旅

河合さん、小畑さん、旅の成果、市に伝えた。

北前航路 ヨットで体感

海域の環境保全・安全に関する
事業推進

環境保全事業に関しては、私たちは環境省の推進する、プラスチック・スマートフォーラムに参加しています。国連の推進の持続可能な開発目標（SDGs）の#14海の豊かさを守ろうと環境省推進のプラスチックによる海の汚染問題に対して堀川運河のプラスチックごみ回収など身近に出来ることを子どもたちと一緒に取り組みます。



安全事業に関しては、行事参加の方々へ体験乗船前の安全教育を海上保安庁指定海上安全指導員が行います。また第5管区海上保安本部指定の安全パトロール艇が当該海域での安全推進活動を行っています。



堀川運河倶楽部
協賛行事案内QR

〒76-0041 兵庫県高砂市高砂町今津町533-1
一般社団法人 高砂市観光交流ビューロー内
phone : 079-490-4790 fax : 079-490-4798
e-mail : kurakukyutaku@takasago-tavb.com

Nov.2021-3000

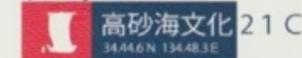
NPO法人 高砂海文化21C

特定非営利活動法人高砂海文化21Cは、瀬戸内海域の一般市民に対して、マリンスポーツや海の文化の普及・振興の事業を行い、港湾利用者には、海域の環境保全・安全に関する事業を推進します。全ての市民の大切な資源である瀬戸内海において、活力ある町作りに寄与いたします。



2008年7月兵庫県知事認可

npo takasago umbunika 21c



<http://takasago-umbunika21c.moer-bindcloud.jp>

マリンスポーツの普及・振興事業

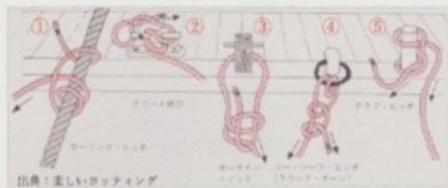
その昔、高砂は港町として栄えました。堀川運河は樫木に囲まれた静かな船溜りとしてその繁栄を支えました。その運河と播磨灘でヨットを利用した親水性を高める事業を推進しています。行政、高砂市観光交流ビューロー、高砂商工会議所、高砂地区まちづくり協議会、ルネサンスみなと町高砂等、諸団体の協力を得ながら活動の幅を更に広げています。

小学生の夏のディンギー教室



小学生達が夏休みに向島公園で世界標準のOPディンギーの操船を学びます。海面で自から、風の向きをよみ、風を掴んでのセーリングを練習。ヨットの操船は自転車に乗る技と似て、乗り方を一度覚えると忘れることはありません。高砂にはセーリング経験した子どもが多くいます。

ヨット教室テキスト part1
ヨットで使うロープの結び方

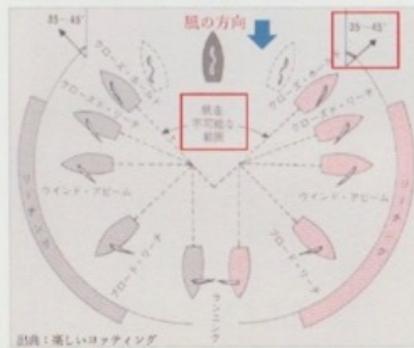


高校生の万灯祭播磨灘ヨットレース参戦



高砂にある県立高校生達が文武両道チームでヨットレースを盛り上げています。松陽高校はレースのクルーで参戦、高砂南高校書道部は表彰式会場横断幕を揮毫し、高砂高校放送部はレース表彰式の司会進行を担当します。かこ（水主）の末裔達は、ヨットレースを通じてチームワークの大切さを学んでいます。

ヨット教室テキスト part2
ヨットが帆走出来る範囲

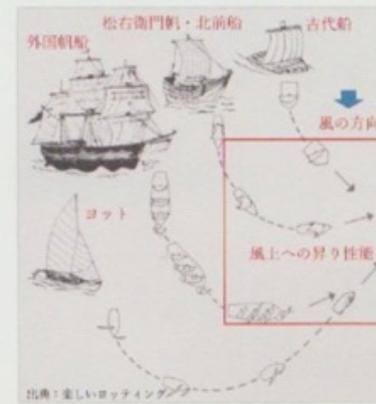


播磨灘の風でセーリング体験



子どもと大人が集い、播磨灘の風でセーリング体験をする。堀川運河を抜けた海から住む街をみながら、運河は世界に通じていると感じる人もいます。夫々、貴重な体験をされます。

ヨット教室テキスト part3
昔の帆船とヨットの帆走性能



帆船「みらいへ」概要

運航者 : グローバル人材育成推進機構
用途 : 旅客船(練習帆船)
総トン数 : 230トン(国内)・362トン(国際)
全長・幅 : 52.16m×8.60m
旅客定員 : 38人(宿泊の場合)
主機関 : 320PS×1基
帆装 : 3本マスト・総帆数13枚





NPO Yacht Squadron
We are Squadron of Sailors
who protect the nada and canals

「ようこそ海から高砂へ」
Well come form the sea to TAKASAGO